

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人 高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	平成26年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800064-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800064-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>安全で美味しく楽しい食事ができるよう、嚥下内視鏡検査を個々のサイクルで専門医師が出席して行っている。また、施設内の歯科診療所も利用できその人らしい暮らしができるよう、自己決定を大切に孤独・さみしさが現れないよう、寄り添うケアを大切にしています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者が美味しく楽しい食事ができるように、独自の取り組みを行っている。併設の歯科医の協力で、対象者の「嚥下内視鏡検査」を行い、異物の付着を解消している。その結果、嚥下機能を向上させ、食べたい意欲を引き出している。あわせて、嚥下体操や口腔ケアを徹底し、誤嚥の予防に成果を上げている。食は、生活の大きな部分を占め、利用者その人らしい暮らし方にもつなげている。介護現場に、独特な手法を取り入れている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で、理念の復唱と16個あるペーシックの一つを毎朝確認している	理念は毎朝、全職員で唱和をし、基本姿勢や使命を確認しながら実践している。利用者が、恵まれた生活環境のなかで、満足と笑顔で、豊かな人生が送れるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の花植え、清掃活動、例祭などに積極的に参加している PTAによる廃品回収などにも参加し交流を図っている	自治会とは、会員に準じたつきあいをしている。地域の花壇づくりや清掃活動、廃品回収などの参加も継続している。事業所周辺の草取りやガラス窓の清掃に、近隣の人々がボランティアで訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々と接するように努力している 相談を受けた場合には、お答えできるように認知症について理解を深めるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に家族も参加していることから、状況報告にて確認・意見を頂き、サービス向上に活かしている	会議には、行政や家族等が参加をしている。事業所の運営状況を報告し、要望や助言等で意見を交わしている。玄関の施錠の課題や地域との防災協定の必要性を話し合い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告書等の提出には、極力市役所担当窓口まで持参して担当者と接するように心がけ、状況報告・情報収集を行っている	市へは、各種申請書の手続きで出向いている。また、管理者が、地域包括支援センターの運営協議会の委員として関わっている。運営上の課題は、そのつど相談し、助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自然治癒力を大切に玄関・窓を開放している 散歩や日光浴、草取りなど行い、拘束の無い環境づくりに努めている	身体拘束や虐待をしない取り組みを、全員に周知・徹底をしている。本人の自由な行動を抑制しないよう、見守りや環境づくりを工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会に参加、とくに言葉の暴力に注意して統一的な行動を行うよう意識を高めている		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度について研修を受け、機会あるごとに話し合いを行い、入居時には必要性のある利用者・家族に対して説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務は基本的に自宅へ出向いて事務担当にて行っている。説明は丁寧に行い理解と納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置し、面会票には意見記入欄を設けている 意見があった場合には、まずは職員に回覧を行い、対策が必要な場合はユニット会議などで協議する	年に一回、家族アンケートを実施している。また、面会簿にもひと言を書いてもらっている。好意的な意見が多いので、利用者・家族との信頼関係を深めながら、意見等には、速やかに対処できる体制を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体のリーダー会議を毎月行い、職員からの意見を話し合う場を設け、サービス向上に繋げている	定例の職員会議で意見・提案を話し合っている。レクリエーションの充実やオムツの選択、光熱費の節約等を検討して、運営に反映させている。さらには、職員の専門性を学ぶためのプログラムを検討している。	個別性を理解した認知症ケアができるように、行動や心理症状の継続的な学習と、専門性の向上に期待をしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には常に情報を提供している 自己評価を含めた評価表作成により、意見聴取・面談を行い、各自が向上心を保てるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師招聘による研修を行い、全職員が受講できる体制(午前・午後)で行っている 職員が希望する研修については、法人の費用負担で受講できるよう勤務日も考慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設の施設の嘱託医、業者を講師としての勉強会の実施、法人本部(岐阜市)で行う研修にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添うケアに取り組み、本人・家族の思いを汲みとってプランに取り入れている 全職員がサービスを共有・統一して提供し安心して暮らせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に希望、思いを伺いケアに取り組んでいる。また、家族の面会時には利用者の状況をお話するよう心掛け、よりよい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望、不安、思いを理解するように努力し、重要な声を見極めてサービスの向上に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員と考え、また、人生の先輩としてわからないことを教えて頂きながら、季節や行事を大切に安楽な生活を送って頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に機会あるごとに状況を報告し、家族にしか本人にやってやれないことをお願いし、家族・職員の関係をより密なものとして、ともに支えて頂くよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所・知人の方の面会を大切に、いつでも気兼ねなく来て頂ける雰囲気づくりに努める 併設の特養に昔馴染みの利用者が見えることもあって交流を図っている	近所の知人や親戚が気楽に訪れ、談話室でゆっくり過ごしている。買い物や外出では、馴染みのある場所へ出かけている。理美容院も行きつけの店である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特養への移動者があった機会に、主に居室で過ごされる利用者を家族の協力を得て食堂(居間)近くの居室に移動し、声かけなどですぐに居間にこれるよう、また食席も楽しめて、支え合える仲間づくりをできるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に伴って退所されたが、退院後に再度の申し込みがあった。また、家族の相談に応じたり入院中には職員が状況を伺っている(面会している)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを把握し、時には夜間入浴を行い、朝食の時間も本人のペースに合わせている	日々の生活場面で、思いや意向を把握している。趣味や特技、食べ物の好み、朝食時間、入浴習慣などを把握し、その人のペースで暮らせるように活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家庭から馴染んでいた家具・写真などの持ち込みによって、住みやすい居室となるよう工夫している 起床・入床時間も本人の生活に合わせるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の個々の記録、申し送りノートなどにて、情報を共有し業務に入っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護職員が毎月モニタリングを行っている ユニット会議にて話し合い、統一したケアが行なえるように努力している	介護支援経過は、毎月のモニタリングで、個々の状態を把握している。家族の面会時や遠方の家族とは、電話で意向を確認し、食事がおいしく、安心して生活ができるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書にある個々のプランを事前に介護記録に印刷して、実施のチェック・確認できる体制として実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望するメニューや季節の郷土料理と一緒に作るなど、ニーズに応えられるよう取り組んでいる		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容院、移動販売、民踊同好会、下呂市仏教会などのボランティアに来館頂き、楽しみのある生活を支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連携して情報を提供し、家族には説明して受診して頂いている	個々に、かかりつけ医がある。ただし現状は、併設の特別養護老人ホームの嘱託医が、毎月一回往診をしている。緊急時は、総合病院(協力医院)へ移送し、支援体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている施設の看護師の協力を得て相談など行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を提供し、退院時にはサマリーを頂いて状況を把握している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて施設、家族、医師の三者で今後の方針について確認し共有している	重度化・終末期の方針は、契約時に、本人・家族に説明し、同意を得ている。段階的に、事業所、家族、医師と話し合い、方針を共有している。ただし、開設後の看取り事例はない。	今後、高齢化と心身の重度化は、避けられない。現実に備え、終末期の対応力と、職員が終末を、当たり前を受け入れられるように、メンタル面の学習にも期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、心肺蘇生法の勉強会を行い、全職員が対応できるように努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の際の避難訓練を定期的に消防署の協力を得て行っている。地域の防災訓練(市主催)なども参加し、地域住民にも非常の際のことについて協力をお願いしている	定期的に、火災を想定した訓練を行っている。また、地域の防災訓練にも参加し、地域とは、防災意識を共有している。備蓄は、5日分を確保し、自治会とは、防災協定締結の準備を進めている。	災害時に、地域資源が有効に機能するように、地域との防災協定の具体化に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人、お一人の誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけ、介助の仕方を工夫している	一人ひとりの誇りや自尊心を損ねない言葉かけを心がけている。常に笑顔と優しい態度で接し、不安を与えないように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたいことなどを聞いて、自己決定ができるよう選択の声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のニーズに合わせ、希望に添った生活を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整え、眉をかいて洋服も選びやすいように整頓している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を大切に、その時期の食材を使用して郷土料理を教えて頂きながら、一緒につくる食器を毎日拭いて頂いている	季節の食材を調理して食卓を潤している。職員も一緒に、利用者のペースにあわせて食し、郷土料理や楽しい話題で盛り上げている。朴葉寿司づくりは、利用者が主役で、生き活きと関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士指導のもとメニューを作成し、水分は1,500ccを基準としてゼリーなどでも摂取できるように好みのものを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には嚥下体操を行い、毎食後には口腔ケアを行っている		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から個々のパターンをつかみ、声かけを行い失禁を防いでいる リハパン→日中には下着布パンツに交換できる利用者もみえる	日中は、できるだけ布パンツに変えて過ごせるように自立を支援している。また、生活場面に応じて、事前にトイレへ誘導し、失禁を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと摂って頂き、食物繊維の多い食材に取り入れ、体操や散歩などの運動に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じた入浴を行っている 夜間入浴の利用者も何人かみえます	入浴日を固定せず、希望があれば、毎日でも受け入れている。心理状態によっては、シャワー浴や足浴で代替し、重度者は、併設の機械浴を使用している。時には、近くの温泉からタンクで湯を調達して、温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく入眠できるよう足浴の提供や、本人のペースで入床して頂いている 日中は安楽に過ごせるようレクリエーション・会話に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにいつでも見えるように挟んであり、全職員が理解している 変更あった場合は必ず記録に残している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物、洗濯干し・たたみ、畑仕事、花植え、梅干し作りなどに力を発揮して頂いている カラオケも最近の楽しみの一つとなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出て、子どもの野球、グラウンドゴルフを見学する 家族の協力により、月に一度の墓参りを楽しみにされている利用者もいる	ホーム周辺を、ゆっくり歩くことを日課にしている。家族と協力して、墓参りや外食、ドライブをかねた日帰り旅行へも出かけている。季節の花見などは、恒例行事となっている。	



岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は事務所で保管している個人の小口現金で買い物をされる、また、自動販売機でジュース・コーヒーなど買いに行けるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話のある方は自由に連絡をとってみえる 職員と一緒に電話をすることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂以外にも休めるスペースを作っている 明かりは間接照明になっており、刺激の無いよう配慮している 毎月季節のカレンダーをつくり居室に貼っている	居間や廊下の適所に仲間とくつろげる量のスペースがあり、季節の生け花と装飾品も調和して、落ち着いた空間である。窓越しに金魚の泳ぐ池や野菜の鉢植え、自然の山並みも見えて、生活感や季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置、施設内の廊下にはちょっとしたスペースがあり休める、また、特養の方とも過ごせるよういつも往来がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭での延長として慣れたものを使っている 布団、化粧品、服など筆筒の中の表示をして、探さなくても解るように工夫している	各部屋には、洗面台が備え付けてある。ベッド以外は、なじみの物を持ち込み、落ち着いて過ごせるように配置をしている。家族の写真や旅行の記念写真を飾り、安心してくつろげる部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を分かりやすくする為、馴染みのある言葉(便所)に替えたり、居室の位置確認ができるようにノレンなど自分だけの目印もある		